

卒業生インタビュー

1. 自己紹介

《ご卒業の年度や、現在のお仕事・ご活動について簡単にご紹介ください。》

中学・高校で仙台白百合学園に在籍し、2019年に卒業しました。
大学卒業後にビジネススクールで経営を学び、現在は気仙沼市と南三陸町で水産業・観光業を営む家業に携わっております。また、東日本大震災の伝承活動にも取り組んでおります。

2. 白百合での思い出・学校生活

《在学中に特に印象に残っている授業や行事はございますか。》

修養会が特に印象に残っています。神父さまのお話に耳を傾けながら、自分自身と向き合い、振り返る良い機会となりました。普段の生活の中ではなかなか立ち止まって考えることができませんが、その時間を通して自分の考えや在り方を見つめ直すことができたように思います。

《部活動や学校生活の中で心に残っている経験はございますか。》

高校時代に所属していた放送部での経験が心に残っています。伝統ある部活動に憧れて入部しましたが、当初は番組制作やアナウンスも未経験でした。先生方のご指導や仲間との協力の中で力を伸ばし、全国大会で入賞することができました。仲間とともに目標に向かって努力した経験は、今でも大切な財産になっています。
また、中学・高校の6年間を寮で過ごしたことも印象に残っており、自立する力や周囲と協力し支え合う大切さを学びました。

3. 白百合で学んだこと

《在学中に培った価値観や学びが、現在のお仕事や活動にどのように活かされていますか。》

在学中に海外研修に積極的に参加し、さまざまな価値観や環境に触れる中で、自分の当たり前を見つめ直すとともに、広い視野を持ち相手の立場に立って考える姿勢を培いました。現在関わっている東日本大震災の伝承活動では、「どうすれば相手に伝わるか」を考えることが重要です。海外での経験を通して培った、相手の背景や立場を意識して伝える姿勢は、今の活動にもつながっていると感じています。

4. 現在のご活動について

《現在のお仕事や活動を選ばれたきっかけを教えてください。》

小学4年生のときに東日本大震災を経験し、その後、仙台白百合学園への入学を機に地元を離れ、三陸の海や人のあたたかさ、地域で働ける場所の大切さに気づきました。海は時に脅威となりますが、私たちの暮らしを支えてきた大切な恵みでもあり、海とともに生きていきたいという思いを持つようになりました。震災で産業や雇用が失われる現実を見てきたからこそ、地域に仕事を残したいと考え、家業に携わる道を選びました。

5. 在校生・受験生へのメッセージ

《在校生や、これから白百合を目指す皆さんに向けて、メッセージをお願いいたします。》

白百合での学校生活は、日々の積み重ねの中で自分を成長させてくれる大切な時間だと思います。勉強や行事など、一つ一つの経験を大切にしながら、ぜひ多くのことに挑戦し、視野を広げてほしいです。その中で、感じたことや学んだことを言葉にして周りの人に伝えることで、自分の中でも理解が深まり、学びがより自分のものになっていくと思います。白百合での時間が、皆さんにとって充実したものとなることを願っています。